

■事例研究会 第2回 課題解決実践セミナー報告

報告者（畠中 道雄）

■概要

事例研究会では、去る8月21日、常翔学園大阪センターにおいて、第2回の課題解決セミナーを開催しました。今回は、近畿支部に準備をお願いし、事例研から入谷和彦氏、大西智氏が講師として参加、19名の受講者の方と、4時間のセミナーを実現させました。

■課題解決実践セミナー

課題解決セミナーは、事例研究会がシステム監査の普及のために、新たに企画したセミナーです。2009年初めのセミナー構想以降、会員から事例の提供を受けながら、カリキュラムや教材の検討を重ねて完成させました。

セミナーは、実際に発生した情報システムの事故・障害の一つを取り上げて、講義と簡易演習を組み合わせ、次のようなプロセスで進みます。

- STEP 1. 事故・障害事例を把握する。
- STEP 2. 問題事象を考える。
- STEP 3. リスクを考える。
- STEP 4. リスク対策（コントロール）を考える。
- STEP 5. システム監査の評価ポイント

本セミナーは、身近な事例を使うことで、ふだん、情報システムやシステム監査に馴染みのない受講者にも、システム障害が他人事でないことを認識していただくとともに、リスク分析とリスク管理、監査人の立場からすればシステム監査の重要性を理解していただくよう企画されました。

時間の関係で多くの事例を取り上げることは出来ませんが、受講者の業種や職業が限定される場合は、相応しい事例を使えるように、教材の開発を続けてまいります。

セミナー終了後、受講者からは次のような感想が聞かれました。

6月の入門セミナーを受講し、そのステップアップ編という位置づけで申し込みをさせていただいた。私自身は実際の業務で監査を行う立場に立った経験は無く、事例研究を通してシステム監査人はどのようにアプローチしていくのかという点に興味があった。

事象の把握から5つのステップを経て、システム監査の評価ポイントへたどり着くという

のが今回講義いただいたアプローチの方法論で「明・周・承・見・記・合・存」の呪文(?)をキーワードに具体的な評価に落とし込むというところがよく分かった。

このキーワードはITの分野に限らず、何らか組織だったプロジェクトであれば、それを失敗なく完遂させるために必要となる管理ポイントではないかを感じる。その点でも今回のセミナーはシステム監査人だけでなく、実際にリスクコントロールを行って失敗を未然に防ぐ立場にあるプロジェクトマネージャー人材、あるいは組織責任者の立場の方にも受講を薦めたい内容であると思う。(山本全 様)

(セミナー風景)



(記 畠中道雄)